

- 会社目標、グループ目標、個人目標はすべてSDGsに関連づけて目標設定。
- 産業廃棄物を削減するため、デジタル機械化にて革新的で競争力のある鋳造用コーティング型を製作。従来の～職人が手作業で原型をつくって、石膏で型をとって、それを樹脂で成形する～というアナログな行程をDX化。

## ○SDGsを自社の経営に取り入れようと考えた契機

●副社長は、以前から環境保護や持続可能な開発の必要性を感じており、リサイクルや女性活躍に関するダイバーシティマネージメント(2018年に宣言)に注力。SDGsは、今まで自社で行ってきた取組と共通点が多く、自社でできていない部分の強化もできるのではないかという思いから経営に取り入れることを決意した。

## ○SDGsを経営に取り込む流れ

●自社で行っていた働き方改革や健康経営、ダイバーシティマネージメントなどの取り組みを17の目標と紐づけし、見える化。  
●SDGsを社の計画へ⇒各グループの計画へ⇒各社員個人の計画へと、それぞれの段階に応じた形で落とし込みを行い、社員個々人が自分事としての理解を図った。  
●社内のグループリーダー等のキーマンを中心にSDGsの浸透を推進。



●当局主催の勉強会に参加。その後の個別支援を活用。SDGsに関する新しい知識を習得。  
●当局主催の個別支援による社内研修会をオンラインで開催。社員の理解を深めた。

## ○SDGs経営の内容、一番重視している取組

### ●二酸化炭素の削減に注力

●自家消費型の太陽光発電機、大型の蓄電池を設置。電力は3分の1を買電、残りは太陽光でまかなっている。



### ●産業廃棄物の削減

●創立当初より職人が手作業で製作していた鋳造用樹脂型において、コロナ禍での売上げ減少を機会に、従来の手作業での樹脂型製作を廃止。再構築補助金※を活用し、デジタル機械化にて革新的で競争力のある鋳造用コーティング型を製作。従来の職人が手作業で型作成⇒石膏で型を取る⇒樹脂で写し取る⇒というアナログな行程を、3DCADと機械装置で作業の効率化とDX化を実現し、産業廃棄物の削減へ。



※事業再構築補助金(第1回公募 通常枠)「職人による鋳造用樹脂型の製作から革新的デジタル機械化への再構築」にて採択。

●産業廃棄物として、木くずと発泡スチロールが発生するが、それぞれが混ざり合うことなく分離できるよう新たに機械装置を導入し、産業廃棄物の削減へ。

## ○SDGsに取り組んで良かったこと

### ●社員の意識

●会社では、SDGsに関する情報を目にする機会が増え、家庭でも子供が学校でSDGsを学んでいるため、SDGsを身近に感じるようになってきている。SDGsをわかりやすく解説している本を社員が紹介し合うような空気感が醸成されるなど社員の意識・行動が変化した。社員同士がコミュニケーションをとりやすくなり、目標を共有しあえる環境が整った。



### ●取引先の反応

●高知県が主催するSDGsセミナーでの講演依頼を受け、自社の取組について発表することで、取引先の銀行、工業会等取引先の方に、SDGsに積極的に取り組んでいる会社としてより広く認識してもらえた。さらに、メディアの取材や外部での事例発表の機会が増え、自社の取組を対外的にアピールする場が増えた。取引している会社(大手)からは毎年アンケートがあり、そこに自社のSDGsに関する取組を記載。

### ●一番良かったこと

●社員全員と持続可能な会社にしていこうという目標を共有できたこと。

## ○会社概要

1965年設立。高知県香南市に本社を構え、各種模型製造及び素形材調達事業を展開。自動車、建設用機械、農業用機械、造船、建築等の各産業分野において重要な役割を担う模型を製作。鋳物・鋳鋼品の試作開発、量産品の調達も実施。「型の総合メーカー」として創業以来「モノづくり」にこだわり、長年に渡り培ってきた経験と技術力で、さまざまな産業分野へ広く貢献してきた。

「お客様の満足度100%のために、産業の基盤である型づくりを通じて、社会に貢献する。」という企業理念を掲げ、近年では、「働き方改革」と「SDGs」を積極的に推進し、様々な取組を展開している。